

「高機能センシングと個人情報活用による独居高齢者の安心・安全・快適なコミュニティ創造」 についての研究開発の概要

研究代表者 : 松本 三千人 (富山県立大学)
 参画研究機関名 : 富山福祉短期大学
 研究開発期間 : フェーズⅠ 平成28年度
 フェーズⅡ 平成29年度～平成30年度

1. 研究開発の目的

独居高齢者の異常時の救急搬送だけでなく、健康寿命延伸を目的とした見守り体制を高機能センシング技術と地域住民によるコミュニティによって構築する。これによって、**医療・介護費用を削減**し高齢者が**安心・安全**に生きがいを持って生活できる街づくりを行う。

2. 研究開発の概要

1) 独居高齢者の見守り

高機能センサにより、高齢者の異常を早期に発見し、地域住民等が対応しやすい見守りシステムを構築する。また、患者の救急搬送時に患者の個人情報を必要に応じてセキュアに提供する事で、迅速な対応を可能にし、救命率の向上と重篤化を防ぐ。

2) 高齢者の健康指導

蓄積したセンサ情報とレセプト情報を元に、高齢者の健康長寿達成に向けた健康指導を実施できる環境構築

3) 地域コミュニティによる見守り

センサからの情報を受ける地域包括連携センターを核とし、そこから迅速に地域コミュニティや医療・看護等の専門家、消防庁等に状況に応じた応援要請を依頼する環境の構築。

3. 期待される成果及び社会的意義

- 1) 医療・介護費用の削減
- 2) 健康寿命の延伸
- 3) 地域の活性化

